

minokamo

暮らしの情報紙 広報みのかも

2023

6.10

No.1080

特集01

美濃加茂市

新庁舎整備

ロードマップ



Walkable City
Minokamo

声をカタチに 声を未来に

藤井浩人市長コラム

未来を、読む

「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」これは武田信玄の名言のひとつで、「立派な城を築くより、国を支える人を大切にしよう」という意味だと、私は捉えています。

新庁舎建設は私に課せられた大きな仕事です。市役所庁舎は、市民生活を支える職員が働く場所であり、市民サービスを提供する場所です。その2つの機能を果たすものが、これからの未来にどのようなカタチであるべきなのかを市民の皆さんと道筋(ロードマップ)に沿って、先を読み、情報を集め、議論していきたいと考えていま

す。

市役所職員にはコンピューターやA Iに負けないような、一人一人の市民・現場を大切にする姿勢、縦割りを超え、情熱を持って仕事と向き合う姿勢が求められています。また、今までのような机に縛られた姿ではなく、いつでもどこでも市民生活の身近で仕事ができる環境がインターネットを活用することで可能となっており、既に多くの企業が実践しています。

今までのような市役所の窓口に平日の昼間に来て、順番を待って市民サービスを受ける時代は、終わらせなければなりません。インターネットによる手続きや身近な施設で市役所と同じサービスが受けられる体制づくりなど、皆さんの大切な時間を無駄にしないことへの追求が求められています。

これまで当たり前だと感じていた市役所のイメージを刷新し、新たな美濃加茂市のイメージを市民の皆さんと共有できると期待しています。限られた予算の中で、お城にこだわっている余裕はありません。立派な市役所に捉われることなく、市民の皆さん一人一人の生活を豊かにできる行政運営を後世につないでいきたいと思っています。

目次

CONTENTS

- 02 みのかもの山、望む山
- 03 Table of Contents
藤井浩人市長コラム／目次
- 04 特集01
新庁舎整備ロードマップ
- 06 特集02
男女共同参画社会
- 08 Information Board
市役所からのお知らせ／今月の納期休日当番／岐阜県からのお知らせ
市政情報番組のご案内
- 22 「健康のまち」から／保健行事カレンダー
子育てを楽しもう
私たちは地域の子どもたちを見守っています
- 24 フロム-0歳プラン掲示板
今月のおすすめ図書
食改さんのおすすめレシピ

暮らしの情報紙 広報みのかも
June 2023.6.10 No.1080

- 26 ローカルSDGs みのかも
みのかも里山日記
Re:Olaレター／住ま居る日記
- 28 姫bizのトリセツ
広域消費生活相談室だより
美濃加茂市の動き
市民団体による資源回収
- 30 今月の各種相談日
- 32 各施設のご案内
新庁舎整備情報
- 34 NEWS&TOPICS／編集後記
- 36 Back Cover
第18回坪内逍遙大賞受賞者公演
さいごの1つ前



今月号の表紙

現在の庁舎とは別の場所にあった、1954年(昭和29年)の市制施行当時の庁舎の写真です。

新庁舎ロードマップで示したこれからの進め方を矢印で表現し、旧庁舎の写真とあわせてデザインしました。

美濃加茂市 新庁舎整備 ロードマップ

問 新庁舎整備推進課 ☎25-2111 内線246

昨年度、市では「(旧)新庁舎整備基本計画(案)がなぜ多くの市民と合意形成をすることができなかったのか」という点について、市民アンケートを実施したり、新庁舎整備事業プロジェクトチームを発足させたりして検証作業を行いました。

今回ご紹介する「新庁舎整備ロードマップ」は、市民アンケートの結果や新庁舎整備事業プロジェクトチームによる検証などに基づき、これからの新庁舎整備の進め方についての手順を定めたものです。

新庁舎整備を市民の皆さんと一緒に進

めていくためのものであり、各段階におけるワークショップの内容や対話についても紹介しています。なお、新庁舎整備の進め方については、次の4つがポイントです。

↓ **旧新庁舎整備事業の検証結果を活用**

これまでの新庁舎整備事業で把握した意見を整理・分析し、市民の皆さんとの合意形成ができなかった部分を検証しました。これらの結果を活用していきます。

↓ **日々の暮らしから新庁舎を考える**

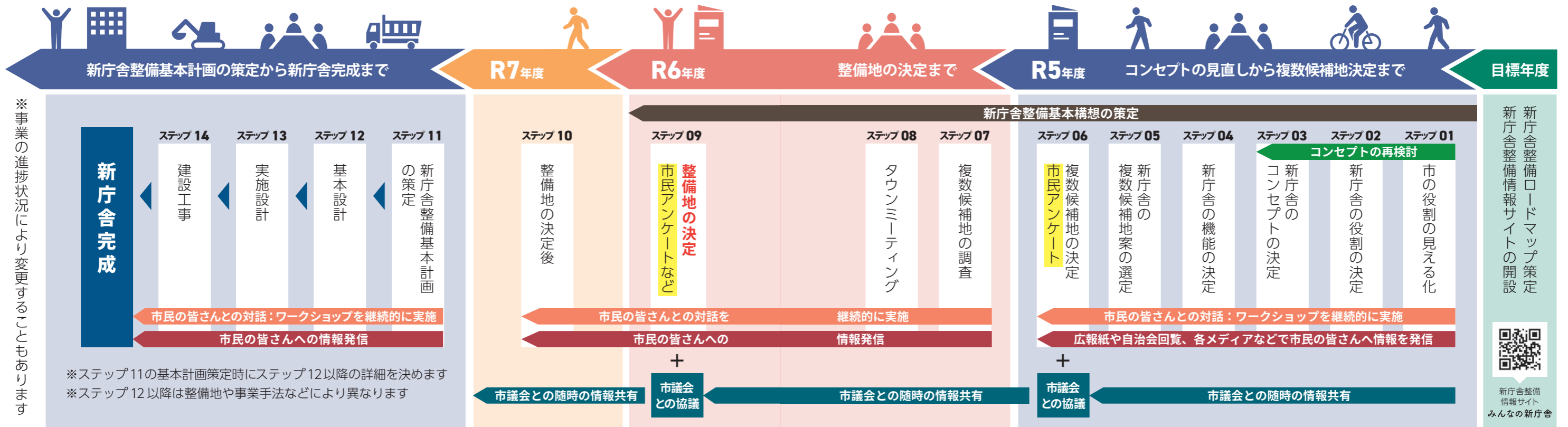
意見聴取やワークショップでは、「新庁舎がどうあるべきか」ということだけではなく、美濃加茂市で暮らす上での将来を考える、「学び」をテーマにした意見交換を行うことで、孫子の代まで住み続けられるまちにふさわしい庁舎を考えていきます。

↓ **皆さんの対話、市民参加を重視**

今後の策定プロセスにおいては、外部有識者などで組織する策定委員会は設置せず、全て市民の皆さんと市で意見聴取や対話を重ねながら決定していきます。

↓ **積極的な情報公開**

新庁舎整備では、防災、都市計画など多様な施策との整合を考える必要があります。それらの情報を誰でも取得できる方法で積極的に市民の皆さんと共有します。



ロードマップの各ステップについて

ステップ01では、市民の皆さんが考える市の役割と、市職員が考える市の役割の認識のすり合わせを行います。市民の皆さんと市職員の考えが違う部分についてお互いが学ぶための機会を設け、市の役割について共通の認識を持てるようにします。

ステップ02では、ステップ01で考えた市の役割を踏まえ、新庁舎の役割を検討します。コロナ禍を経た社会情勢の変化やデジタル化の進展による新しい行政サービスの在り方などを見直ししながら、新庁舎の役割を考えます。

また、市民の皆さんとは、年代・性別・居住地などさまざまな市民のモデルと個別のストーリーから新庁舎に求められる役割を考えるワークショップを行います。

ステップ03では、ステップ01と02による市の役割、新庁舎の役割を示し、新庁舎のコンセプトを再検討して決定します。市民の皆さんとのワークショップでは、(旧)新庁舎整備基本構想のコンセプト案を再検討し、新たなコンセプト案を提言します。

ステップ04では、これまでのステップを踏まえ、新庁舎に必要な機能を市民の皆さんとのワークショップで検討します。

ステップ05では、ステップ04で決定した新庁舎の機能や、課題の実現性、市の方針を踏まえ、複数候補地案を検討・提示します。市民の皆さんとの対話により候補地案を吟味しますが、必要であれば、市民の皆さんは前提条件が踏まえられた別の候補地案を市に提言できます。

ステップ06では、ステップ05で選定した複数候補地案について、幅広い意見を聴取するために、市民アンケートを実施します。各候補地に対する意見を聴取し、市民意見を集約します。その結果を踏まえ複数候補地を決定するとともに議会へ報告します。

ステップ07では、ステップ06で決定した複数候補地について、整備地とする上で必要な調査を実施し、具体的かつ詳細な整備費用などを算出します。

ステップ08では、これまでのワークショップの内容や複数候補地の調査結果などを、タウンミーティングで共有します。

ステップ09では、市議会との相談の上、決め方も踏まえて整備地を決定します。

ステップ10の整備地の決定後は、完成に向け、ステップ11～14の順に、市民の皆さんと対話をしながら整備を進めます。

Public office

新庁舎整備情報

New public office project office

これまでの進め方との違い

市では、令和5年3月に『新庁舎整備ロードマップ』を策定しました。本号では4ページから5ページにかけて、新庁舎整備ロードマップを特集しましたが、ご覧いただけただけでしょうか。

新庁舎整備ロードマップは、特集でもご紹介したとおり、これからの新庁舎整備の進め方についての手順を定めたものであり、市民の皆さんと共有して、新庁舎整備を一緒に進めていく指針となるものです。そこで今回は、新庁舎整備ロードマップの中から『これまでの進め方との違い』についてご紹介します。

令和4年度に行った旧新庁舎整備事業における検証で、これまでいただいた意見を改めて整理・分析しました。その結果、見直すべきところや、その反省をどう生かしていくべきなのかが検証結果として示されました。



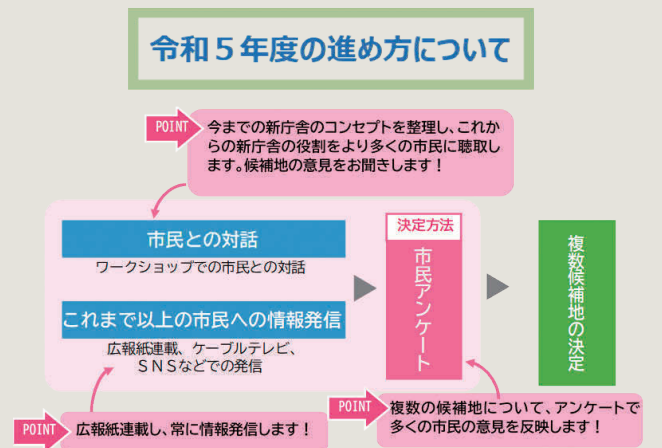
▲新庁舎整備事業プロジェクトチーム「検証部会」での検証の様子

まず、これまでの新庁舎整備事業における課題として、市民意見の聴取不足が挙げられ、「対話」や「市民参加」がとても重要であるということが、検証によって改めて示されることになったのです。

そこで、これからは「ワークショップ」を土台に、市民の皆さんとの対話を重ねていきます。今までの新庁舎のコンセプトを見直し、これからの新庁舎の役割について、より多くの市民の皆さんから聴取していくほか、候補地の意見に関しても、ワークショップやアンケートなどで多くの意見を反映していきます。

また、整備地選定までのプロセスが不透明だと感じ

た人が多かったという検証結果を受け、今後は新庁舎整備の進め方においては全て、市民の皆さんと市で意見聴取や対話を重ねていきながら決定していくことになりました。市民の皆さんと一緒にワークショップの場で新庁舎について考えていき、その場で出たご意見や決定したことは、その都度、広報紙や新庁舎整備情報ポータルサイト、SNSなどを通じて情報発信をしていきます。



これまでの、新庁舎整備の情報発信についても大きな課題であったため、市民の皆さんに対して情報の根拠を明確に示し、分かりやすい方法でお伝えするため、候補地ごとの課題や自治体経営などの情報を、誰もがアクセスできる形で共有することが重要だと考えました。そのため、新たな新庁舎整備事業の進め方については、広報紙コラムの連載や新庁舎整備情報ポータルサイトをはじめ、自治会の回覧やケーブルテレビ、SNSや市ホームページなどを活用し、さまざまな世代の皆さんにより広く情報を伝えられるようにしていきます。

市民の皆さんと共に新庁舎を作っていくため、これからも改善を重ねていきます。

※新庁舎整備情報ポータルサイトは、右の二次元コードからご覧いただけます

